

宮津市が進めるコミュニケーション教育



「話し合う・創る・表現する」ワークショップ等を通じた子どもたちのコミュニケーション能力の育成

◆社会の変化と子どもたちに求められる能力◆

21世紀は、知識基盤社会の時代であるとともにグローバル化が一層進む時代である。多様な価値観が存在する中、自分とは異なる文化や歴史に立脚する人々とともに、異なる意見や考えなどを交換し、正解のない課題、経験したことのない課題を解決していかなければならない「多文化共生」の時代。このような時代を生きる子どもたちは、積極的な「開かれた個」（自己を確立しつつ他者を受容し、多様な価値観を持つ人々と共に思考し、協力・協働しながら課題を解決し、新たな価値を生み出しながら社会に貢献することができる個人）であることが求められる。

教育活動

授業・遊び・日々の活動



演劇的手法

ワークショッププログラム



チームワーク

集中力

発想力

忍耐力

やり遂げる力

メタ認知



これからの社会を生きるために必要な非認知能力の育成・向上へ

【演劇的手法を通じた活動】

- ①自分とは異なる他者を認識すること
- ②集団を形成し、他者との協調、協働が図られる活動を行うこと
- ③他者認識を通して自己の存在を見つめ、思考すること
- ④対話やディスカッション、身体表現等を活動に取り入れつつ正解のない課題に取り組むこと

【演劇的手法を活用して育む力】

対話力

イメージの共有化

エンパシー
(共感)

合意形成能力

【社会で生きて働く力】

- 他者認識、自己認識の力の向上
- 社会的能力
- 自己肯定感と自信の醸成
- タイムマネジメント
- 表現力
- クリエイティビティ
- レジリエンス
- セルフコントロール
- 思いやり
- 自己有用感

真の主体的・対話的で深い学びの実現へ

◆幼稚園・小学校・中学校◆

- 「劇遊び」を通じた非認知スキルの醸成
- 総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な展開
- 演劇的活動などの表現手法を取り入れたワークショップの実施
- 創作やグループでの話し合い等の活動課程を重視
- 「導入」「展開」「ふりかえり」の課程を仕組む



教員にとって期待される効果

◆関係団体◆

- 学校園のニーズに合わせて芸術家をコーディネート
- 事前準備、事後評価を効果的に実施



授業改善や学級経営への効果

学習環境の改善

◆宮津市コミュニケーション教育推進委員会◆

- 実施計画の策定
- 演劇的手法を用いたプログラムの実施と振り返り
- 教育効果の検証（実施前・後のアンケート等）
- 先進校視察、講師の招聘、劇団の派遣 等